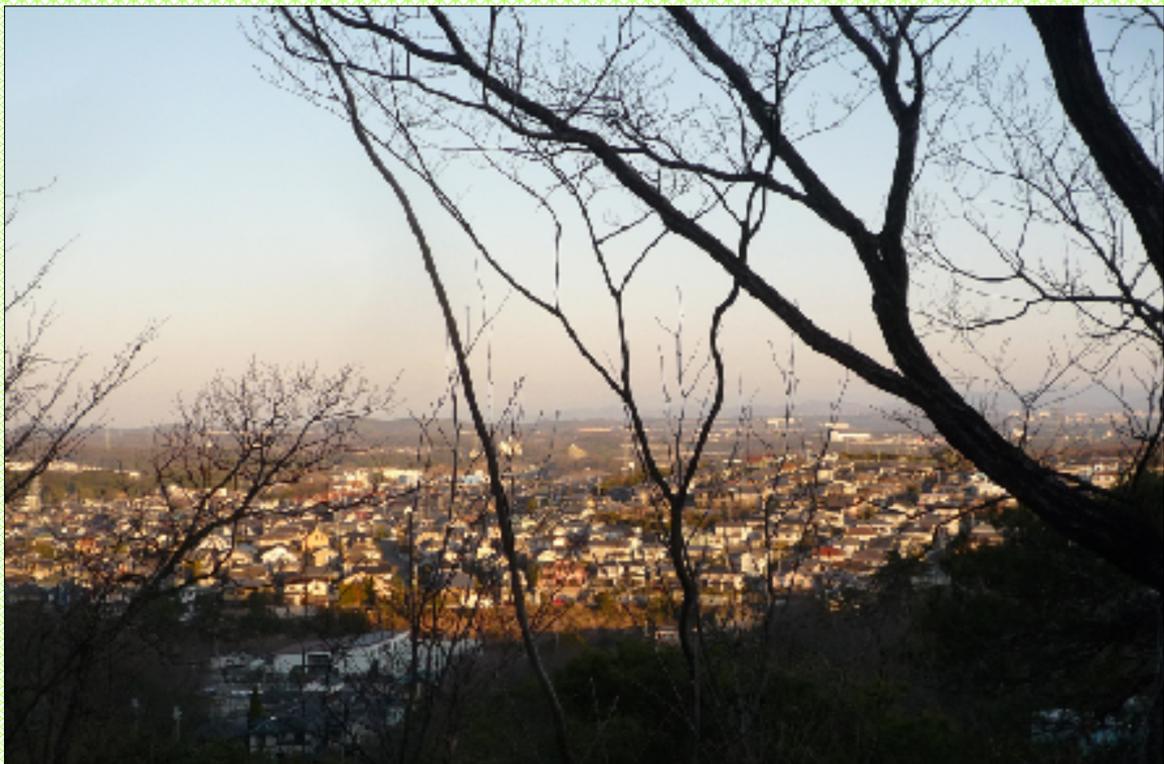


「誰もが安心していきいきと
生涯を暮らせる共生の町」をめざして

社協30年誌（前編）

北六甲台地区社協



丸山中腹からの北六甲台地区の風景

西宮市北六甲台地区社会福祉協議会

目次

【前編】

■20年誌発刊に当たって

- ・過去を受け継ぎ未来を拓く（分区長 日高昭夫）----- 1
- ・20年誌発刊に寄せて（三代分区長 蘆田敏郎、四代分区長 生田 収）----- 2

■前編20年の歩み

- ・北六甲台の誕生とまちづくり（1968年～1993年）----- 3
- ・分区設立の経過（1994年～1996年）----- 4
- ・分区結成総会（1996年11月10日）----- 5
- ・組織の確立と事業展開（1996年～2004年）----- 5
- ・新たな展開（2004年～2009年）----- 12
- ・組織整備と事業の定着（2010年～2013年）----- 18
- ・超高齢社会の対応（2014年～）----- 22
- ・まとめと課題「歴史の継承と地域包括ケア」----- 29

【後編】

■30年誌（後編）発刊に当たって

- ・波瀾に満ちた10年の歩み（会長 日高昭夫）----- 2

■後編10年の歩み----- 3～10

- ・地区社協としての地域密着の独自性（2017年～2019年）
- ・コロナ禍対応と共生型交流拠点づくりの頓挫（2020年～2022年）
- ・開かれたプラットフォームに向けて（2023年～2025年）

■あしがき

- 30年誌としてデジタルデータで発信----- 11

【資料編】

- ・地区社協歴史年表----- 2～5
- ・歴代役員名簿----- 6～8
- ・歴代民生委員・主任児童委員名簿----- 9
- ・福祉事業の年度別実績推移----- 10
- ・ボランティアセンター活動の年度別活動実績推移----- 11
- ・歴代ボランティアコーディネーター名簿と在任期間----- 12
- ・2015年度・基本事業報告----- 13
- ・2024年度・基本事業報告----- 14
- ・福祉ネットの経過とまとめ----- 15
- ・福祉ネット6年の歩み----- 16
- ・交流拠点断念のまとめと反省----- 17
- ・交流拠点づくり4年の歩み----- 18
- ・社協活動の写真紹介----- 19～21
- ・ボランティアセンター活動の写真紹介----- 22



1980年頃の北六甲台の風景（北六甲台4丁目宗村泰明さん提供）

分区20年誌発刊に当たって

過去を受け継ぎ未来を拓く

分区長 日高 昭夫



昨年4月に第21回分区総会を開催しました。分区設立20年の節目を迎えたこととなります。総会で「分区20年誌の発刊」を提案し承認され、三役を中心とした20年誌編纂委員会が設置されました。5月以降、編纂委員会は6回の会合を重ねようやく発刊の運びとなりました。

編纂委員会での資料収集や協議を通じて、20年に及ぶ高齢者支援等の地域福祉に果たした分区の役割の大きさを痛感しました。発足以降、分区活動を支えて頂いた多くの先輩や地域の関係者のご尽力にあらためて敬意を表します。

同時に20年の分区活動の歩み、成果、風土を正確に受け止め、次の世代に引継ぐ活動として「分区20年誌」発刊の意義を噛み締めました。

他方で分区のおかれた今日の環境は設立期から様変わりしました。人口増が続いたファミリー世帯中心の新興住宅街は、今や人口減少の超高齢社会となりました。団塊世代のウェイトが突出する北六甲台は2025年には深刻な「在宅介護」に直面します。

分区活動も「高齢者の困り事支援」に加えて「在宅介護支援」という新たな課題が避けられません。

分区の歴史の重みをキチンと受け止め継承しながら、この困難な課題を達成したいと思います。「過去を受け継ぎ未来を拓く」上で「分区20年誌」が貴重な糧となることを確信しています。

歴代分区長紹介



初代分区長
故・竹内勝彦氏



二代分区長
故・津守芳徳氏

分区20年誌発刊に寄せて

三代分区長 蘆田 敏郎



この度、分区創立20周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

介護保険法が成立し、時代の趨勢とともに当地域も福祉への関心が高まっている中で、平成9年、初代分区長・竹内氏が「誰もが幸せに暮らせるまちづくり」を目指して自治会を中心に結集し、山口支部に待望の北六甲台分区を発足されました。

二代分区長・津守氏は、地域福祉推進に関心と意欲のある人材を集め、活動を組織化して、現在の地域福祉の基礎を築かれました。

私は、先人の示された道を、分区役員の方のご協力によって進めるとともに、各種団体間の意思疎通を諮るため、連絡協議会の結成と福祉意識の深化をはかろうと、福祉に関するフォーラムの開催等微力ながら地域福祉の進展に努めさせていただきました。

現在は、分区発足当時とは違い、社会も地域も大きく変化し、地域福祉への期待も広く深くなっています。少子高齢化による従来の家族観の変化に伴う生活意識の変化、地域の連帯感の希薄化、障がい者や社会的に排除されやすい人への対応、次世代を育む場への対応、各種災害からの安全の確立等の対策対応です。

取組むべき課題は多岐にわたりますが、当分区では課題解決のためのひとつとして、国の進める地域包括ケアシステムの実現に取り組んでおられることに敬意と感謝を致しております。

分区創立20周年を機に、当地域が分区の福祉活動によって、ますます住みよい街になりますことを祈念し、甚だ簡単措辞でございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。

四代分区長 生田 収



平成21年春の総会で、分区長に就任し、その後7年間もの長期にわたり担当致しました。この間、それぞれの年度での役員さんをはじめ、皆さま方に支えられてなんとか任を務めさせて頂きましたことに、あらためて感謝する次第です。地域活動はまったく初めての関わりでしたので、戸惑いも多く皆様には多々ご迷惑をかけたかと思えます。

平成20年代にはいると、地域においても少子・高齢化が目に見えて進展する中で、早速第7次福祉計画を策定し「だれもがしあわせにくらせるまちづくり」をモットーに地道な活動を推進してまいりました。障がい者の皆さんの憩いの場として「青い空」を引き継ぎ、従来からの活動である様々な出会いの場（交流事業）を継承しました。また任期中に発生した東日本大震災への支援としての募金活動等にも取り組みました。

任期後半においては安心キットの導入と普及に取り組み、この活動等をとおして地区ネットワーク会議（福祉ネット）設立への手がかりを得ました。

北六甲台地域をさらに安心して暮らせるまちづくりにするためには、これまで以上に地域の各団体・組織間での連携・協力体制が重要になります。また、医療や福祉などの機関や事業所との連携も一層必要になります。分区活動ならびに福祉ネット等を通じて、第8次福祉計画の理念である「共生のまちづくり」をめざした活動を期待し、社協の益々の活躍を祈ります。

分区20年の歩み

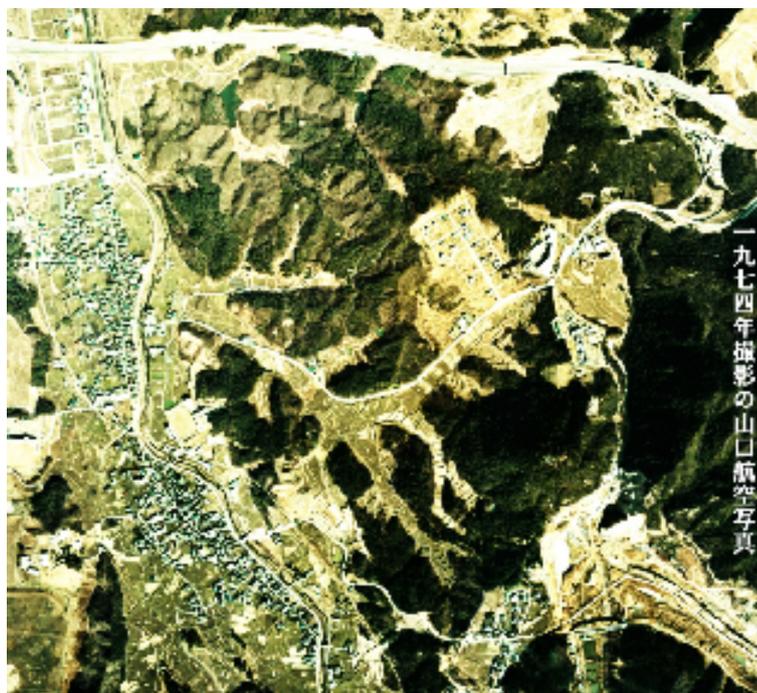
北六甲台の誕生とまちづくり（1968年～1993年）

お天上山の開発

地元住民からお天上山と呼ばれていた山口町の丘陵地に、1968年に初めての新興住宅地グリーントウンの分譲が開始されました。その14年後の1982年に北六甲台の分譲が始まりました。

北六甲台のまちづくり

1983年に阪急バスの北六甲台乗り入れが実現し、その3年後にはJR西宮名塩駅も開設され交通の便も格段に向上しました。一方では1985年に幸幼稚園が、1987年にパナ西友が、1989年に北六甲台小学校が相次いで開設され、まちづくりが順調に進展しました。



自治会の発足と住民交流

1985年には北六甲台自治会が発足し、設立当時の自治会は10班からなり会員約300世帯で構成されていました。同年夏には初めての盆踊り大会が、翌年には運動会が開催され、住民間の交流懇親もスタートしました。

外郭団体の発足

自治会設立総会では平行して外郭三団体の設立準備が着手され、1987年には、福寿会、婦人部、子ども会が発足しました。また1990年に北六甲台体育振興会（スポーツクラブ21の前身）が、1991年には北六甲台小学校区青少年愛護協議会（青愛協）が、1992年には連合福寿会が相次いで発足し、住民各層を対象とした地域組織が整えられました。

北部水源池問題特別委員会の発足

阪神高速道路北神戸線東伸部の建設に伴い、そのルートが水道水源である金仙寺湖内に橋脚を建てて通過することから、金仙寺湖の水質保全を目的に1993年に自治会内組織として北部水源池問題特別委員会が設置されました。

北六甲台の昔の風景

写真左は1994年頃の北六甲台コミセン前の信号機のない交差点風景。写真右は1995年の北六甲台平尻公園の「とんど」の風景。（北六甲台1丁目・西村清子さん提供）



分区設立の経過（1994年～1996年）

分区設立の準備会合

1994年4月に社会福祉協議会（以下「社協」という）山口支部内に北六甲台分区問題を考える会合が開催されました。会合では「社協とは？」「高齢化社会と問題点」「社協の実践活動」「なぜ分区なのか」等の幅広い論議が交わされました。

翌年10月に竹内北六甲台自治会長の要請で、北六甲台、グリーントウン両自治会、連合福寿会、婦人部、子ども会、体育振興会、青愛協、民生児童委員の8者13名による分区問題検討会議が開催されました。以後この会議は「分区問題研究委員会」として分区設立の準備を行いました。

※分区設立に当たって北六甲台地区では当初から民生児童委員全員が準備会参加等の形で中心的な役割を担いました。（歴代の民生委員・児童委員、主任児童委員の氏名と在任期間は別紙の通りです）

分区問題研究委員会での設立準備

分区問題研究委員会は1995年11月から翌年9月まで9回に渡り会合を重ね、規約、理事会構成と人選、事業計画、予算等の作成準備を行いました。

社協山口支部での分区制導入決定

1996年7月に社協山口支部総会が開催され、支部のもとに山口、北六甲台の両分区を設置し、よりきめ細かな福祉活動を推進することが決定されました。

インタビュー

分区設立の背景と経過

分区設立準備委員・松岡博子さん



昭和57年（1982）に民生委員をお引き受けしました。その頃グリーントウンに加えて北六甲台でも分譲が始まり、山口地区の民生委員では対応できなくなりつつありました。当時、主人がグリーントウンの自治会長をしていた関係から私にお鉢が回ってきました。それ以前に山口小学校のPTA副会長等をやっていたことも関係していたのかもしれませんが。担当地区はグリーントウンを含めた北六甲台全体でした。

その後、北六甲台の分譲が順調に進む過程で、高齢者ケアが課題になりました。というのも、北六甲台の分譲は区画面積も広く比較的高額だったため入居者の多くが経済的にゆとりのある定年退職前後の年代層が多かったという背景があります。当時この町の社協は山口支部でしたが、山口の旧集落は自治会や老人会を中心にコミュニティがしっかりしており、社協の活動は敬老会等のイベント開催がメインでした。

そんな事情から北六甲台の高齢者問題に取り組むには、北六甲台独自の組織が必要であると考えていました。最初は社協山口支部内に北六甲台分区問題を考える会合が開催され、その後、北六甲台地区の北六甲台、グリーントウンの両自治会、連合福寿会、婦人部、子ども会、体育振興会、民生児童委員の代表者による分区問題研究委員会が発足し、分区設立の準備が進められました。

当時、私は西宮市社会福祉協議会の老人部会の副会長をしていて、北六甲台自治会長から社協活動の説明と分区の必要性について班長会議で説明をするよう依頼されました。自治会に社協のことを知ってもらえる良い機会だと思い、この依頼をお引き受けし説明させて頂きました。

社協分区結成総会には民生委員の一人として出席させて頂きました。

（取材・文責：日高）

分区結成総会（1996年11月10日）

平成8年（1996）11月10日、北六甲台小学校多目的室において社協山口支部北六甲台分区の結成総会が開催されました。

総会には、31名の代議員はじめ役員予定者、市社協理事長、山口支部長等の来賓を加えて約60名が出席しました。

総会では、分区問題研究委員会の活動報告の後、分区の事業計画、予算、規約が審議決定され、最後に15人の役員を承認して閉会しました。

初代分区長に選任された前北六甲台自治会長の竹内勝彦氏は、就任あいさつで「地域住民の福祉ニーズをつかみ、実のある社会福祉活動を着実に実行していきたい」と抱負を述べられました。



平成8年度（1996）の活動

組織の確立と事業展開（1996年～2004年）

設立直後の活動として組織固めを課題に次の取組みを実施しました

- ①敬老会招待者（70歳以上）を対象とした「敬老会の北六甲台単独開催の可否及び老人福祉アンケート」による福祉ニーズの把握。敬老会単独開催の可否では332人の回答者の62%が単独開催を希望。これを受けて平成9年3月の山口支部との協議で敬老会は平成9年度から単独開催することを合意。
- ②分区誕生の啓発のため全住民向けの回覧と広報紙発行の準備（「広報紙の年2～3回の発行」「広報紙タイトル『福祉だより ぬくもり』決定）
- ③平成9年3月に分区関係者と地域住民による「福祉研修会」を開催（「分区の福祉事業の進め方」についての講演と意見交換）
- ④歳末助け合い運動として北六甲台、グリーントウン両自治会より合わせて5万5千円の寄贈を受領

【地域の動向】

- ・平成9年3月に上山口2・3・4丁目自治会が発足しました。
- ・平成9年3月にパントリー北六甲台店がオープンしました。



平成9年度（1997）の活動

2期目は「住民への周知と啓発の方向づけ」を目標に以下の取組みが行われました。

- ①平成9年5月の第2回総会で分区長が竹内氏から津守氏に交替
- ②同年5月に広報紙「ぬくもり」創刊号を発行。以後「ぬくもり」は年2回定期的に発行。
- ③同年9月27日に第1回敬老会が、北六甲台小学校体育館で関係団体の協力も得て開催（対象者388人中198名の参加）
- ④高齢者対象の健康講座や住民対象のボランティア講座を開催
- ⑤福寿会指導による「ふれあいグラウンドゴルフ教室」を開催（約90名の参加）
- ⑥70歳以上の方を対象に「高齢者のつどい」を山口町徳風会館で開催（映画鑑賞と丁目毎の座談会「身近な福祉」を実施）
- ⑦日赤募金、共同募金実施し、歳末助け合い運動の街頭募金活動を実施
- ⑧第4次福祉計画（平成9年～12年）を策定

福祉だより

ぬくもり

創刊号

西宮市社会福祉協議会
山口支部北六甲台分区
分区長 津守 芳徳
平成9年5月31日



薫風の

かぜいっばいに

船出する

◇ 分区長に就任して ◇



津守 芳徳

今年度の総会におきまして、分区長の大役をさせて
戴く事になりましたが、北六甲台分区は、まだ生まれ
たばかりの「赤ん坊」です。

これからの様に育てるか、住民皆様のお考え次
第だと思います。先進国の例や淡路の五色町が、
「福祉の町」といわれるまでには、20年から
30年かかったと言われております。最初、行政側は
余り関心が無かったのに、住民の強力な要望の積み
重ねから現在の姿が生まれたと聞いております。

個人的な夢ですが、北六甲台も五色町の様になれ
ば良いなあと、考えております。

取り組みなくてはいけない課題は、色々あると存
じますが、「一歩ずつゆっくり」進んで行きたい
と思っておりますので、宜しくお願い致します。

レクリエーション、講演会等の行事を計画いたし
ますので開催時には、お一人でも多くのご参加を
お願い申し上げます。



平成10年度 (1998) の活動

3期目を迎え、福祉マップ作成、ふれあい食事会、ふれあい喫茶開設、ボランティアセンター設置の着手等の新たな取組みの他、自治会主催のグラウンドゴルフの協賛、子ども会の協力による「車いす体験」などの交流活動が進展しました。

- ①福祉マップ（北六甲台周辺と神戸市北区岡場周辺の医療・保健・福祉施設の案内図を作成し全戸配布）
- ②親子の福祉体験交流（子ども会の協力で35名の参加者で「車いす体験」を実施）
- ③自治会主催の三世代交流グラウンドゴルフ大会に協賛
- ④ふれあい食事会（70歳以上の高齢者を対象に徳風会館で40名の参加を得て開催）
- ⑤ふれあい喫茶開設（毎月第2水曜日にコミュニティセンターA室で開催）
- ⑥地区ボランティアセンター開設準備（安心プラザの建設が進む中で開設準備委員会を設置）
- ⑦第2回敬老会を実施（210名の参加）
- ⑧募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動を実施した他、初めて「会員会費制」の募金を実施。
- ⑨その他、住民対象に2回の福祉講座、施設見学を実施

【地域の動向】

平成10年には山口地区自治会連絡協議会が発足しました。



ふれあい喫茶の開設

ふれあい喫茶開設担当 轟 紀代子

ふれあい喫茶は、平成11年に社協分区分活動の一環として「北六甲台の人が気軽に集まってお茶を楽しみながら親睦を深める場所づくり」という目的で開かれたのが始まりでした。私が担当したときは、ふれあい喫茶のことを一人でも多くの方に知って頂きたいと思い、住民どなたでも通りすがりの方でもぶらっと立ち寄って頂きたいという願いを込めて準備していました。多数の方に来ていただくと嬉しくて担当者全員張り切って接待させて頂きました。

まだ予算も少ない中で、安くて美味しく数も多いお菓子を求めてあちらこちらと走り回ったりと、しんどくもあり楽しくもありの思い出がいっぱいあります。その反面、「月1回の開催がマンネリになるのではないか、続けていけるだろうか」などの自信のなさもあり、不安でもありました。

ふれあい喫茶の担当から外れて見ると開催日も忘れがちで足が遠のいてしまいました。運営する側にいるときは続けるには大変な努力と多くの人々の協力が必要であることを痛感しましたし、立場が変わってみると自分の都合の良いときにゆっくりできる場所があればと望みます。両方の立場を経験したことで一つの行事を続けることの大変さをあらためて知ることができました。

平成11年度 (1999) の活動

組織の体制づくりと会議運営が整備され、前年度までに開始した新たな活動が着実に定着してきました。その一方で分区活動の大きな柱となる「ボランティアセンター」の開設準備も今一步のところまでこぎつけました。

- ①組織体制の整備（毎月一回の役員会、年6回の広報部会の開催、企画、調査、募金の3事業部の設置）
- ②ふれあい喫茶（前年度開設後、今年度10回280名参加で定着化）
- ③ふれあい食事会（40名参加）、第3回敬老会（208名参加）、三世代交流グラウンドゴルフ（76名参加）も定着化
- ④研修活動（住民対象福祉講座3回75名、施設見学バスツアー2回74名、住民座談会50名、分区事業部研修会）
- ⑤募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施

平成12年度 (2000) の活動

平成12年度の特筆事項はボランティアセンターの開設ですが、徐々に実施を進めてきた広報・研修・交流活動の継続、定着化もはかられました。その他、初めて「障がい者児支援事業」にも着手しました。

◇第5次福祉計画の策定（2001年度～2004年度）

◇ボランティアセンター開設

①北六甲台分区ボランティアセンター“ぬくもり”の開所式開催

- ・日時 平成12年6月8日（木）10:00～10:30
- ・会場 北六甲台「安心プラザ」
- ・内容 オープンセレモニー、施設見学、懇談会
- ・来賓 23名、社協（市社協、山口支部、塩瀬支部）、福祉施設（一羊園・山口苑、名塩さくら苑、ななくさ、幸泉エルズ）地域組織（北六甲台自治会、グリーントウン自治会、婦人部、子供会、体育振興会、青愛協、第1～第5福寿会）

②ボランティアセンターの活動

- ・毎週木曜日9時～12時に年間39回開設
- ・ボランティアコーディネーターも8名でスタートし、以降別紙の通り着実に増員
- ・カーボランティア利用者37名、利用回数91回
- ・山口苑、ななくさ新生園、ななくさ育成園、一羊園にボランティア派遣も始まり、今年度延べ83名を派遣

◇既存事業の実施

- ①交流活動（ふれあい喫茶7回193名、ふれあい食事会24名、第4回敬老会266名、三世代交流グラウンドゴルフ60名）
- ②研修活動（住民対象福祉講座5回132名、ボランティア研修会2回36名、施設見学バスツアー2回54名、代議員・民生協力委員・福祉協力員研修会2回37名、住民座談会17名）
- ③障がい者児支援事業（砂子療育園に協力、年12回実施）
- ④募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施

【地域の動向】

平成12年5月には上山口安心コミュニティプラザが竣工しました





ボランティアセンター開設



ボランティアコーディネーター 本郷克子

1995年の阪神大震災の教訓から西宮市社会福祉協議会が地区ボランティアセンター設立を呼びかけ、北六甲台分区も1年の準備期間を経て2000年に開設しました。

市民館のない北六甲台ではまず場所の確保という問題がありました。北六甲台自治会との話し合いの結果、県の震災復興基金で建てられた北六甲台安心プラザの一室を使用することで開設にこぎつけることができました。市社協のボランティアコーディネーター（VC）養成講座を受講した8名のVCの当番制で、まずは週1回の相談日を定めました。手探り状態ではありましたが、市社協の指導を受けながら必要な規則を定め、手続き書類の書式を整え、ボランティア登録をしてもらうよう呼びかけを行いました。そしてそれまでもすでに活動をしていたグループの協力を得た施設ボランティア、更に移送サービスの制度も整えていくことができました。

このようにして出発したボランティアセンターですが、2006年からは相談日が週2回となり、VCの人数も倍になりました。そして2016年からは超高齢社会に対応できる有償ボランティア「よりそいサポート」をスタートさせることができました。その説明会には住民のみなさんの予想を上回る参加があり、関心の高さを物語っていました。利用者登録、サポーター登録も少しずつふえています。

高齢化率が上昇の一途をたどっているこの地域で、ボランティアセンターの存在はますます重要になり、それに伴い新しい形態の模索も必要になっていくことが予想されます。



障がい者・児支援事業の始まり



障がい者・児支援部長 井上さち子

平成10年、地域の障がいをお持ちのご家族から津守分区長に「砂子療育苑からリハビリが出来る場所を提供して貰えないか」との依頼がありました。そこで社協がコミュニティセンターA室を利用できるよう手配して、数名で準備など担当することになりました。これが障がい者・児支援部の始まりでした。その後、北六甲台安心プラザができたのを機にそのA室でリハビリの用意や見守りを毎週水曜日に行ってきました。

平成16年頃、蘆田分区長が、地域内をいつも目的もなく歩き回る青年を見かけたり、障がい教育学校を卒業したものの施設が満員で行き場所がないなどの方たちの居場所に心を痛めておられました。そこでその居場所つくりのために安心プラザA室で有志3名と毎週月曜日に「青い空」を開くことになりました。「青い空」とは障害がある方もない方も同じ青い空の下で暮らしていけるようにと願いを込めて付けられた名前です。

何の支援もない「青い空」でしたが、時々バザー実施で得た資金などで3年間続けてきましたが末永く存続するためには社協の事業に組み入れて頂くことが必要ということから、平成21年以降、社協の障がい者・児支援部の事業として今に至っています。

平成13年度 (2001) の活動

前年のボランティアセンター開設に伴い、カーボランティアを中心にセンターの活動が着実に進みました。また子育て支援活動「友だちつくろう」や山口中学校の「トライやるウィーク受け入れ」も新たにスタートしました。

- ①ボランティアセンター47回開設（カーボランティア利用者46名・利用回数91回、施設派遣延べ67名）
- ②子育て支援事業「友だちつくろう」が、就園前の幼児とお母さんを対象に7月から毎月第3金曜日に北六甲台コミュニティセンターでスタートしました。当年度は9回開催し262名が参加。
- ③交流活動（ふれあい喫茶10回389名、障がい児と介護者の集い25名、第5回敬老会285名、三世代交流グラウンドゴルフ47名）
- ④研修活動（住民対象福祉講座5回132名、ボランティア研修会2回54名、施設見学バスツアー2回54名、代議員・民生協力委員・福祉協力員対象の研修会2回37名、住民座談会17名）
- ⑤広報紙「ぬくもり」の発行増（年2回を3回に）
- ⑥障がい者児支援事業（砂子療育園協力・年12回実施）
- ⑦今年度初めて山口中学校のトライやるウィークの受け入れを実施しました。（高齢者疑似体験、車椅子体験・2年生4名参加）
- ⑧募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施。

【地域の動向】

- ・平成13年4月に山口分区第1回さくらまつりが開催されました
- ・同年2月に上山口東の老人会「秋桜会」が発足しました



子育て支援ともだちつくろうの発足

元・子育て支援部長 井澤淳子



平成13年7月11日に「子育て支援」としてのふれあい喫茶をコミュニティセンターA室で開催したのが始まりです。

要らなくなった絵本やおもちゃを持ち寄り、マットなども消毒して準備を整えました。ふれあい喫茶としてスタートしましたので、当時は飲み物だけでなくお菓子も用意していました。

「公園デビュー」や「育児ノイローゼ」などの言葉も使われるようになっていましたが、北六甲台ではどうだろうか？皆さん参加して下さるだろうか？と心配しましたが、14組34名の参加がありました。

近くに住んでおられても道が一筋違うだけで同年代の子どもがいることも分からず、1人で子育てしているようでとても不安でした、と話される方もおられました。

お母さん同士が連絡先を交換されたり、自主的に北六甲台公園で子育てのサークルを作られる方もありました。

幼稚園に入るまでの短い期間ですが、15年もち、当時のお子さんは高校生になっておられると思うと月日の早さを感じますね。

平成14年度 (2002) の活動

分区設立6年を経て組織や事業の骨格が固まってきました。今期は事業の定着化と充実に向けた取り組みが実施されました。

- ①交流活動（ふれあい喫茶11回502名、友だちつくろう12回377名、第6回敬老会309名、三世代交流グラウンドゴルフ54名）
- ②研修活動（住民対象福祉講座4回106名、ボランティア研修会2回54名、施設見学バスツアー51名、代議員・民生協力委員・福祉協力員の研修会2回29名、住民座談会28名）
- ③障がい者児支援事業（砂子療育園に協力・年12回実施）
- ④ボランティアセンター50回開設（カーボランティア利用者55名・利用回数241回、施設派遣延べ295名）
- ⑤ボランティアセンターだよりが年5回発行されました
- ⑥山口中学校トライやるウィーク受け入れ（高齢者疑似体験、車椅子体験・4名参加）
- ⑦募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施

平成15年度 (2003) の活動

この年度も従来の活動の定着と充実を基本に実施されました。

- ①交流活動（ふれあい喫茶10回554名、友だちつくろう11回648名、第7回敬老会305名、三世代交流グラウンドゴルフ41名）
- ②研修活動（住民対象福祉講座2回51名、ボランティア研修会26名、施設見学バスツアー44名、代議員・民生協力委員・福祉協力員の研修会2回43名、住民座談会28名）
- ③障がい者児支援事業（砂子療育園に協力・年12回実施）
- ④ボランティアセンター50回開設（カーボランティア利用者54名・利用回数161回、施設派遣延べ587名）
- ⑤山口中学校トライやるウィーク受け入れ（高齢者疑似体験、車椅子体験・男女各4名参加）
- ⑥募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施

【地域の動向】

北六甲台自治会主催の第1回文化祭が開催されました

新たな展開 (2004年～2009年)

平成16年度 (2004) の活動

平成16年5月の総会で分区長が津守氏から蘆田氏に交替し、新体制がスタートしました。

◇第6次福祉計画の策定 (2005年度～2009年度)

第6次福祉計画が、「だれもがしあわせに暮らせるまちづくりをめざして」を目標に策定されました。

◇上山口東地区の北六甲台分区への編入

この総会では上山口2・3・4丁目の地区が北六甲台小学校区となったことから新たに分区の構成エリアに編入されました。

山口中央公園脇に建つ記念碑には、西宮市のこの地区の区画整理事業が平成8年度(1996)に完了したとあります。以降、上山口2・3・4丁目の宅地分譲が進められ戸建住宅や集合住宅の建築が相次ぎました。

この地区の社協は上山口1丁目と同様に山口分区に所属していましたが、平成10年(1998)にこの地区の小学校区が山口校区から北六甲台校区に移行したことから、社協分区もその6年後に北六甲台分区に編入されました。



◇分区活動の新たな展開

こうした背景のもとに分区活動にも次のような新たな展開がありました。

- ①社協山口分区と共催で「さくらまつり」に参加しました
- ②ふれあい喫茶をさくらまつりと北六甲台文化祭でも開催(以降毎年継続)。上山口東でも安心プラザで初めて開催(以降毎月第3水曜日に開催)
- ③友だちつくろうを毎月第4金曜日の定例開催のほか、第3金曜日にも参加者による自主活動が7回実施されました。また「さくらまつり」でも臨時開催しました。
- ④ふれあい交流会(75歳以上の方の食事会招待)を丁目別に四日間に渡って開催。参加者(北六甲台1丁目35名、2丁目28名、3丁目27名、4丁目23名、5丁目28名、上山口東15名)

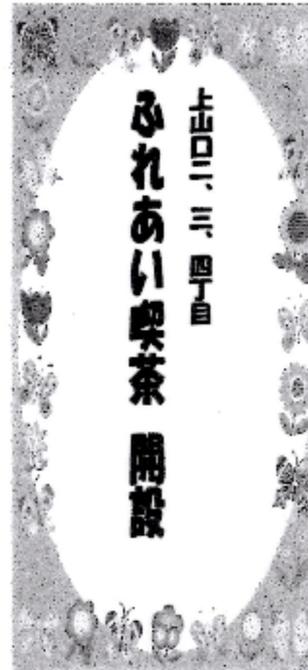
◇既存事業の実施

- ①交流活動(ふれあい喫茶北六甲台12回・上山口1回、友だちつくろう19回、第8回敬老会370名、三世代交流グラウンドゴルフ61名、自治会共催・住民交流バスツアー16名)
- ②研修活動(住民対象福祉講座3回93名、ボランティア研修会3回89名、施設見学バスツアー44名、代議員・民生協力委員・福祉協力員の研修会22名、代議員報告会、住民座談会24名)
- ③障がい者児支援事業(砂子療育園に協力・年11回実施)
- ④ボランティアセンター49回開設(カーボランティア利用者55名・利用回数263回、施設派遣延べ822名)
- ⑤山口中学校トライやるウィーク受け入れ(高齢者疑似体験、車椅子体験男女各4名参加)
- ⑥募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施。

【地域の動向】

- ・前年の自治会総会での北六甲台とグリーントウンの両自治会の合併決議を受けて今年度から正式にグリーントウンが北六甲台に編入されました。
- ・北六甲台分譲の事業主体だった松下興産が事業清算しました。これを受け平成16年度自治会総会で松下興産の建物敷地の購入決議が行われ、翌年に旧松下興産事務所跡に自治会館ができました。



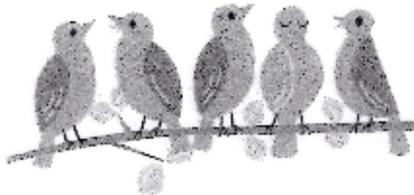


― 上山口二、三、四丁目安心コミュニティプラザにおいて社協主催のふれあい喫茶が毎月第三水曜日に開催されます ―

三月十六日、上山口二、三、四丁目安心コミュニティプラザにおいて「ふれあい喫茶」が開催されました。

四月並みの暖かい日差しの中でコーヒーの香りに包まれた会場にはクラシックの音楽が流れ、きれいにセッティングされたテーブルには可愛らしいお花を中心に楽しい会話が弾みました。

この「ふれあい喫茶」は子どもから大人まで住民誰もが気軽に足を運んで頂ける場となっております。お昼の散歩の寄り道に、”家事の間の息抜きに”ちよっとお茶をのみながらおしゃべりに来ていただけたら嬉しく思います。

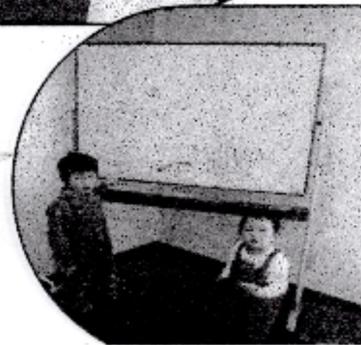


4月

「ふれあい喫茶」のお知らせ

- ☆ 4月20日(水)
午後1時30分～3時30分
- ☆ 上山口2,3,4丁目
安心コミュニティプラザ

～お待ちしております～



社協北六甲台分区主催のふれあい喫茶を上山口東安心プラザでも開催することになりました。第1回目は平成17年3月16日(水)に開催し、上山口東自治会、秋桜会、民生委員、民生委員協力委員と地域あげての協力で実現致しました。

分区全体では、平成11年より北六甲台コミュニティセンターで、開催しておりましたが参加したくても、坂を上がって行くのは大変との声もあり実現の運びとなりました。

オープン当初、軌道に乗るまで、しばらく社協役員5名ずつが、喫茶にいらした方の話し相手をする当番表を作成しました。今はその必要もなくすっかり地域に密着したふれあい喫茶として定着しています。(田中弘子・記)



ふれあい交流会の誕生と変遷

副分区長 田中弘子



誕生直後の丁目別の開催

平成15年、津守分区長の時に、ふれあい交流会等を開催すれば、歳末助け合い募金の交付金が支給されるということが分かり、それに分区資金を充当して75歳以上の皆様の交流の機会をもって頂けるよう食事会を始めました。

開催は寒い時期ですが、初日は1丁目コミセンB室、二丁目コミセンA室、三丁目安心プラザと三か所で、2日目は四丁目コープ西宮北店集会室、五丁目コミセンA室と2日間に渡り行いました。もちろんお弁当もお菓子も各丁目同じ、各丁目の役員、協力委員がスタッフとしてお世話をしました。

次の年の平成16年の総会で上山口2・3・4丁目が、北六甲台分区に移行され平成17年より上山口安心プラザも含めて6会場で行いました。丁目ごとに集まり、近隣の方と顔見知りになり、これがきっかけで皆様の交流の輪が広がったのではないかと思います。

サンパレスでの一括開催

蘆田分区長に代わり、雑談の中で一堂に集まれるふれあい交流会が話題となり、そんな広い会場は、近隣ではサンパレス六甲以外にないということになりました。当時の役員の中にサンパレスの関係者がおられ、話しを通して頂き何度も話し合いを重ねてようやくサンパレスでの一括開催の話がまとまりました。

そこで平成20年よりふれあい交流会の会場を「サンパレス六甲・披露宴会場」に移し75歳以上の方が一堂に会して、チョットおしゃれをして、美味しい食事を楽しむ笑顔がいっぱいの開催となりました。

会場探しに頭を悩ましていた社協分区と地域に根付いた事業展開を望まれていた事業者との思惑が噛み合っ、分区の地域特性を活かした活動の良い事業モデルといえるかもしれません。(株)レックの協力でサンパレス六甲の会場までバスを出して頂き、もう一台は、市のマイクロバスのピストン運転で足を確保しました。

寒い時期の開催であり毎年雪の降らない事を祈り、風邪等で欠席者が出ませんようにと願いながらの開催です。

平成17年度(2005)の活動

第6次福祉計画の初年度として計画の実施が取組まれました。個々の具体的事項についての目標達成の評価について評価委員会が設置されました。

◇既存事業の実施

- ①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回・上山口11回、ふれあい交流会：北六甲台1丁目28名・2丁目34名・3丁目23名・4丁目21名・5丁目31名・上山口16名、友だちつくろう定例開催12回・自主開催12回、第9回敬老会215名、三世代交流グラウンドゴルフ60名）
- ②研修活動（住民対象福祉講座3回146名、ボランティア研修会2回72名、住民交流バスツアー82名、代議員・民生協力委員・福祉協力員の研修会回45名、代議員報告会、住民座談会33名）
- ③広報紙ぬくもりが年5回発行となりました
- ④障がい者児支援事業（砂子療育園に協力・年11回実施）
- ⑤ボランティアセンター49回開設（カーボランティア利用者55名・利用回数263回、施設派遣延べ822名）
- ⑥山口中学校トライやるウィーク受け入れ（友だちつくろう2名）
- ⑦募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施

平成18年度 (2006) の活動

次のように既存事業の充実化がはかられました。

◇「福祉のしおり」の発行

広報活動では広報紙ぬくもりが年6回の隔月発行となった他、「福祉のしおり」（分区活動の紹介を中心に福祉関連の行政機関の窓口を案内）を発行し全戸配布しました。

◇ボランティアセンターの週2回開催

ボランティアセンターの相談日が毎週木曜日に火曜日に加わり週2回態勢になりました。

◇「敬老会」から「敬老のつどい」へ

敬老会が市の方針変更もあり「第1回敬老のつどい」として再出発しました（550名参加）

◇既存事業の実施

①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回・上山口10回、ふれあい交流会北六甲台1丁目25名・2丁目33名・3丁目29名・4丁目20名・5丁目31名上山口東17名、友だちつくろう12回、三世代交流グラウンドゴルフ60名、住民交流バスツアー70名、さくらまつり共催）

②研修活動（住民対象福祉講座2回72名、ボランティア研修会2回59名、施設見学バスツアー44名、代議員・民生協力委員・福祉協力員研修会52名、代議員報告会、住民フリートーク30名、地域フォーラム78名）

③広報紙ぬくもりが年6回の隔月発行となりました

④障がい者児支援事業（砂子療育園に協力・年10回実施）

⑤ボランティアセンター90回開設（ボランティア登録93名、カーボランティア利用者52名・利用回数99回、施設派遣延べ979名）

⑥山口中学校トライやるウィーク受け入れ（ボランティアセンターで高齢者疑似体験・車椅子体験3名）

⑦募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施

平成19年度 (2007) の活動

◇福祉アンケートの実施

第6次福祉計画の中間年度であり、分区活動が地域住民にどう評価されているかを把握するため各自治会の協力を得て「福祉アンケート」を実施しました。

◇初めての小学校福祉学習支援

今年度初めて北六甲台小学校の福祉学習（車椅子、アイマスク体験）のお手伝いをしました。

◇既存事業の実施

①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回・上山口11回、ふれあい交流会：北六甲台1丁目30名・2丁目25名・3丁目25名・4丁目18名・5丁目36名・上山口東11名、友だちつくろう定例開催11回自主活動11回、第2回敬老のつどい300名、三世代交流グラウンドゴルフ40名、自治会共催・住民交流バスツアー70名、さくらまつり共催）

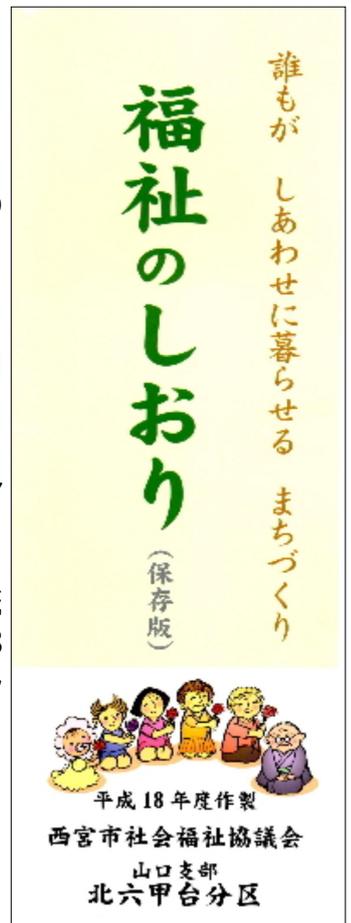
②研修活動（住民対象福祉講座2回63名、ボランティア研修会29名、施設見学バスツアー44名、代議員・民生協力委員・福祉協力員の研修会59名、代議員報告会10名、住民フリートーク27名、地域フォーラム54名）

③障がい者児支援事業（砂子療育園に協力・年5回実施）

④ボランティアセンター99回開設（ボランティア登録93名、カーボランティア利用者52名・利用回数83回、施設派遣延べ774名）

⑤山口中学校トライやるウィーク受け入れ（友だちつくろう2名）

⑥募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施



平成21年度 (2009) の活動

平成21年5月の総会で分区長が蘆田氏から生田氏に交替し新たな体制がスタートしました。

◇障がい者児支援事業「青い空」の開始

社協分区事業として新たに障がい者児の憩いの場「青い空」の支援活動を毎週月曜日10時～15時に北六甲台安心プラザで始めました。

◇既存事業の実施

①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回958名・上山口11回314名、ふれあい交流会サンパレス150名、友だちつくろう11回保護者154名幼児176名、第4回敬老のつどい350名、三世代交流グラウンドゴルフ56名、さくらまつり共催）

②研修活動（福祉講座2回55名、施設見学バスツアー45名、ボランティア研修会2回85名、代議員報告会、地域フォーラム32名）

③支援活動（障がい者児支援事業「青い空」35回延べ148名、在宅ねたきり介護者お見舞い事業13名）

⑤ボランティアセンター96回開設（ボランティア登録93名、カーボランティア利用者73名・利用回数116回、施設派遣延821名）

⑥山口中学校トライやるウィーク受け入れ（青い空2名）

⑦募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施。

【地域の動向】

平成21年4月に山口センターがオープンし、同月にさくらやまなみバスが運行を開始しました。



組織整備と事業の定着（2010年～2013年）

平成22年度（2010）の活動

◇第7次福祉計画の策定（2010年度～2014年度）

◇既存事業の実施

- ①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回951名・上山口10回323名、ふれあい交流会サンパレス139名、友だちつくろう10回保護者100名幼児115名、第5回敬老のつどい300名、三世代交流グラウンドゴルフ62名、さくらまつり共催）
- ②研修活動（福祉講座2回61名、施設見学バスツアー39名、ボランティア研修会2回90名、代議員報告会）
- ③支援活動（障がい者児支援事業「青い空」43回、在宅ねたきり介護者お見舞い事業13名）
- ④ボランティアセンター98回開設（ボランティア登録98名、カーボランティア利用者58名・利用回数96回、施設派遣延べ882名）
- ⑤山口中学校トライやるウィーク受け入れ（青い空2名）
- ⑥募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施。

【地域の動向】

平成22年6月にパントリー北六甲台店が閉店しました。

平成23年度（2011）の活動

事業の継承と充実化を基本に次のような活動を実施しました。尚、サンパレスでのふれあい交流会では今年度から参加者全員に500円の会費分担をお願いしました。

- ①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回932名・上山口10回348名、ふれあい交流会サンパレス122名、友だちつくろう10回保護者96名幼児150名、第6回敬老のつどい250名、三世代交流グラウンドゴルフ65名、さくらまつり共催）
- ②研修活動（福祉講座2回53名、施設見学バスツアー29名、ボランティア研修会2回84名、代議員報告会）
- ③支援活動（障がい者児支援事業「青い空」44回、在宅ねたきり介護者お見舞い事業13名）
- ④ボランティアセンター97回開設（ボランティア登録98名、カーボランティア利用者60名・利用回数90回、施設派遣延べ630名）
- ⑤山口中学校トライやるウィーク受け入れ（青い空2名）
- ⑥募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施。

【地域の動向】

- ・平成23年6月に高齢者あんしん窓口山口が開設されました。
- ・平成23年10月に県民交流広場北六甲台地区会議が発足しました。

平成24年度（2012）の活動

事業の継承と充実化を基本に次のような活動を実施しました。

- ①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回819名・上山口10回362名、ふれあい交流会サンパレス111名、友だちつくろう11回保護者116名幼児132名、第7回敬老のつどい200名、三世代交流グラウンドゴルフ雨天中止、さくらまつり共催）
- ②研修活動（福祉講座2回62名、施設見学バスツアー28名、ボランティア研修会2回73名）
- ③支援活動（障がい者児支援事業「青い空」42回、在宅ねたきり介護者お見舞い事業15名）
- ④ボランティアセンター99回開設（ボランティア登録78名、カーボランティア利用者61名・利用回数94回、施設派遣延べ662名）
- ⑤山口中学校トライやるウィーク受け入れ（青い空2名）
- ⑥募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施。

【地域の動向】

上山口東自治会の文化祭が始まりました



平成25年度 (2013) の活動

今年度の特記事項は、超高齢社会を迎えて高齢者の見守り活動のため「安心キット」を以下の通り導入実施した点です。

◇安心キットの導入

◇既存事業の実施

- ・目的：①救急車での緊急搬送時の搬送の迅速化
②見守りを必要とする人の情報把握
③見守りの地域取組みのきっかけづくり
- ・準備会：社協分区、連合福寿会、民生委員、市社協地区担当で構成
- ・期間：平成25年6月～平成26年3月（8回の準備会開催）
- ・申込：ぬくもり特別号（案内と申込書）を自治会非会員も含め全戸配布
- ・結果：420世帯、653名の導入（高齢者の42%）

- ①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回730名・上山口東11回336名、ふれあい交流会サンパレス116名、友だちつくろう11回保護者89名幼児124名、第8回敬老のつどい170名、三世代交流グラウンドゴルフ57名、さくらまつり共催※雨天で山口ホールで開催）
- ②研修活動（福祉講座2回57名、施設見学バスツアー34名、ボランティア研修会2回73名）
- ③広報紙ぬくもり68号（平成25年4月号）からでB5版4面構成からA4版4面構成に変更。72号（同年12月号）から編集ソフト「パーソナル編集長」を導入し紙面を刷新。
- ④支援活動（障がい者児支援事業「青い空」45回、在宅ねたきり介護者お見舞い事業15名）
- ⑤ボランティアセンター98回開設（ボランティア登録69名、カーボランティア利用者69名・利用回数150回、施設派遣延610名）
- ⑥山口中学校トライやるウィーク受け入れ（青い空2名）
- ⑦募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施。

【地域の動向】

北六甲台自治会総会で高齢化対応の取組みを確認



安心をふやす!

安心キットのご利用案内



社会福祉協議会(社協)北六甲台分區では、今年度の事業計画に「高齢者の見守りの推進」を重点テーマとして、まず第1歩として「安心キットの導入」に取り組むことに致しました。(「安心キット」の詳細については、この案内書をご覧ください。)

そのため民生委員の方々の協力と運営福寿会のご支援のもと、導入準備を進め、今回、以下のようにご利用をご案内することになりました。

安心キットは、緊急時に駆けつけた救急隊員に緊急情報を直接伝えられるもので、迅速な尚、地域での見守り環境を整えるために、計画を進めています。ご理解とご協力を賜いますので、その点のご了承を頂く

応募方法

ご案内対象者 65歳以上の高齢者で希望
申込み方法 申込書を平成25年9月10
キットの配布 平成25年12月頃に、社協
お問い合わせ 北六甲台市
毎週火曜日と木曜日の午前
※運所 北六甲台安心プラ

安心キ

安心キットの利用を申し込みます。
西宮市社会福祉協議会および、北
同意致します。

住 所 西宮市北六甲台 _____

氏 名 _____
お二人
の場合 _____

電 話 _____ 078-



安心キット
高さ22.5cm、直径6.8cm

安心キットの概要と手引き

社会福祉協議会北六甲台分區

安心キットとは

安心キット(救急医療情報キット)は、かかりつけの医療機関や緊急連絡先などを記入した用紙や保険証のコピーを、筒状の容器に入れて冷蔵庫に保管しておき、緊急時に救急隊員に簡単に見つけてもらって迅速な搬送に役立ててもらうためのツールです。

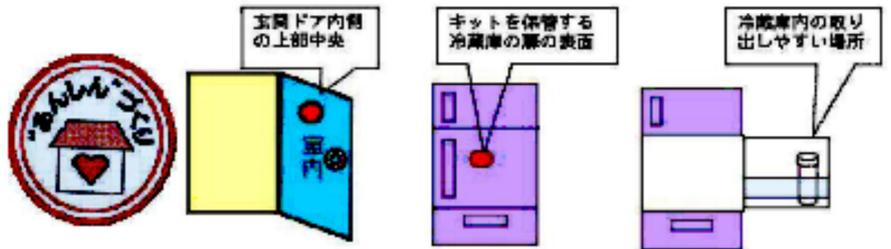
全国の自治体で導入が広がっており、西宮市でも社協によるモデル地区での実装導入が進められています。

緊急時の安心キットの活用事例

① 119通報 → ② 発見・確認 → ③ 搬送



シールの貼付とキットの冷蔵庫保管

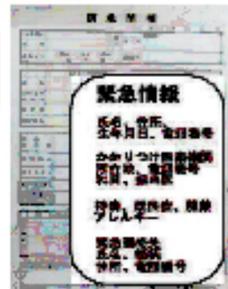


シール

なぜ、冷蔵庫に入れるの?
冷蔵庫と決めておくことで、駆けつけた人が
すぐに安心キットを見つけられるからです。

安心キットに入れるもの

- ① 緊急情報シート(必要事項を記入したもの)
 - ② 健康保険証の写し
 - ③ 病院や薬局などで買っている薬剤情報提供書やお薬手帳の写し
- ※上記③は、用意できれば入れて下さい



福祉だより
ぬくもり



第68号

平成25年4月18日

西宮市社会福祉協議会
山口支路北六甲台分区分区長 生田 敏



四月六、七日の全国的な暴風雨も終りました。開催が危うくはなりましたが、山口センターで開催となりました。フリーホールに設けられ、分区分区長と関係者で、盛況でした。



平成二
敏

は、残念でした。しかしこの悪条件で無事開催にこぎつけられた関係者に深く感謝します。前日には、日本一に輝いた山口子ども太鼓の素晴らしい演奏を聞かせてもらいました。指導された先生が、名東地区に伝わる太鼓をアレンジして生徒たちに教えたのでしよう。

さくらまつりを、社協のメジャーな行事として位置づけ、今後とも地域づくりの一環としてがんばり、各自治会等を巻き込んで、山口地区全体の行事としての交流を深め、絆を強める、そんな取組みが、これからの高齢社会に対応するために、とても大切ではないでしょうか。



社会福祉協議会北六甲台分区分区報「ぬくもり」72号



第72号

平成25年12月21日

発行西宮市社会福祉協議会
山口支路北六甲台分区分区
編集北六甲台分区分区報部

本号から「ぬくもり」紙面を全面リニューアルしました！

文化祭に参加して

ふれあい喫茶スタッフの一言

晴れ晴れが覗いたり、午後には突然雨が降ったりと、そんな十一月四日、自治会主催の文化祭に、今年もふれあい喫茶は参加しました。いつもの笑顔も、普段お会いすることのない多くの方たちとの一日は楽しいものでした。これが将来に繋がればと思います。
今回は、五年以上以上もふれあい喫茶を支えて下さっている役員以外のスタッフの一三メッセージをお届けしたいと思います。(横井)



友と共に、「少しだけ唄いてみましょうか」と入りました。会場の素敵な雰囲気と皆様の柔和な笑顔に魅了され、その場で加入をさせて頂き、今日に至ります。「出逢いで人生が広がる」。お属下がりのひとときを、一緒に過ごしたいかがですか！(市ノ川)

喫茶のメンバーでいつも仲良く楽しく、このボランティアをしなければ出会ってない方々、続けられて本当に良かったと思います。ぜひ月一回第二水曜日のふれあい喫茶へ！お待ちしております。(横井)

十一月四日の文化祭ふれあい喫茶に百八十名の皆様にお越しいただきありがとうございました。私達スタッフは、「はい喜んで」のおもてなしの心で皆様をお迎えしています。明るく温かい雰囲気の中で、家族、グループ、一人の方など、皆様に楽しんで来て頂きたいと心配りをさせて頂いています。会話を通して心が通じ合う方を一人でも多く作って頂くお役にたきたいと思えます。(横井)



団気の中で皆で精一杯活動しました。オリンピックの言葉が話題になりましたが、心を込めての気持ちで、ふれあい喫茶の意義でもあると感じています。(松尾)

和気あいあいとした雰囲気の中で人と人の交流を心から楽しみ、語り、有意義なひとときを共有させて頂いております。無理なく続けることで、人との出会いを大切にしながら、地域とのつながりをより深めていきたいと思えます。(松尾)



超高齢社会の対応（2014年～）

平成26年度（2014）の活動

超高齢社会を迎えて昨年度の「安心キット」導入の経験を活かしながら市社協提案の地区ネットワーク会議の設立に取組み、福祉ネットワーク北六甲台地区会議（福祉ネット）が以下の通り設立されました。

◇福祉ネットワーク北六甲台地区会議の設立

①設立準備

- ・検討委員会（平成27年7月～11月）：分区三役を中心に6回の委員会
- ・設立準備会（平成27年12月～翌年3月）：社協分区、北六甲台自治会、連合福寿会、ボランティアセンター、民生委員、高齢者あんしん窓口山口、市社協地区担当による4回の準備会

②組織概要

- ・設立趣旨：①高齢化の加速化と在宅ケアの地域対応②北六甲台地区の高齢化の実態と環境への対応③社協分区を中心とした自治会、福寿会、民生委員など高齢者福祉の関係者の連携組織の必要
- ・構成：北六甲台自治会、上山口東自治会、社協北六甲台分区、ボランティアセンター、連合福寿会、民生委員・児童委員、高齢者あんしん窓口山口、市社協地区担当、顧問【オブザーバー】医療・福祉事業者8者、【アドバイザー】専門職・実務者4名

③設立総会

- ・日時：平成27年3月8日（日）9時～12時 於：山口ホール
- ・内容：【第1部】設立総会 【第2部】福祉フォーラム
- ・参加者：120名（代議員56名、一般参加40名、来賓、オブザーバー、アドバイザー24名）



◇福祉ネット広報紙創刊号の発行

平成27年4月にシルバーセンターを活用して全世帯に配布されました。

◇山口ボランティアセンターとの交流会

平成26年12月に北六甲台ボランティアセンターと山口ボランティアセンターとの交流会が開催され、以後の毎年12月の交流会の定期開催が確認されました。

◇ちょい呑みオヤジ会の発足

ボランティアコーディネータ会でリタイヤ男性の地域活動への参加を促す手だてのひとつとしてオヤジ



会の開催が検討されました。これを受けて唯一の男性コーディネータ（日高）を中心に平成26年12月に「男性限定ボランティア交流会」が開催されました。

交流会では「まずオヤジたちのちょい呑みで気心を合わせてからのボランティアでは？」との声で「ちょい呑みオヤジ会」が発足しました。オヤジ会はその後24回を重ね42人の会員を数えています。（平成29年3月現在）

ぬくもり・社協北六甲台分区分
ボランティアセンター だより

特別号
平成26年11月14日
西宮市社会福祉協議会
山口支部北六甲台分区分
分区長 生田 収

男性限定ボランティア交流会のご案内

"リタイヤオヤジの居場所づくり"

リタイヤ
したぞ〜ッ!



あれから40年

リタイヤされた皆さん！妻帯者のサラリーマン世帯という一般的な家庭では、奥様との二人きりのハッピーライフを過ごされている方も多いでしょう。きみまる言うところの「あれから40年」を迎えました。新婚時代の復活です。ラブラブ時代の夫婦が40年を経ておよそ様相を異にして向き合うことになりました。仕事、仕事で家庭を顧みなかった夫と、子育て・PTA、ご近所付き合い、パートなどでこれまた夫と向き合うことのなかった妻が40年ぶりに一つ屋根で日がな一日顔つきあわせるわけです。とはいえ地域に密着して過ごした妻と、地域は寝床でしかなかった夫の40年間の落差は歴然たるものがあります。

夫の居場所は？

夫はリタイヤ後、遠からずして永年住み慣れた筈の地域と家庭にいかに自分の居場所がないかを思い知らされます。しばらくは妻のねぎらい気分もあり、テレビとご寝で過ごせるでしょう。ところが備えのない夫の場合、テレビとご寝が日常生活として定着し、下手をすればそのまま「引き籠もり」という事態にもなりかねません。あれほど夢見たリタイヤ後のハッピーライフはどこに行ったのでしょうか。

どっかに出かけたら？

妻には、この事態は最悪です。永年君臨してきた居心地の良い我が家に、突如、夫と称する嵩高い連れ合いが日がな一日占拠し始めるのです。仲良しさんたちと行き来してお茶していた食卓のすぐそばに、デンと居座る夫の姿がいやでも目に入ります。「もうお友達を呼べないし訪ねるのも控えなければならない」と、妻が貴重な日常のひと時を奪われるという恐怖感に駆られても不思議ではありません。そんな妻にとっての一縷の望みは、夫が地域に居場所を見つけて出かけてくれることです。

夫の居場所づくり懇談会

今や「夫の居場所づくり」はリタイヤ夫婦の共通の悲願です。そこで”リタイヤオヤジの居場所づくり懇談会”を企画しました。ボランティア登録済のオジサンやこれから居場所を探そうというオジサンが交流し、居場所づくりのヒントを探ります。地域活動、ボランティア活動、趣味・講座、散歩、山歩き、ゴルフ、グラウンドゴルフ、市民農園等々。リタイヤオヤジ

どっかに 出かけたら？



男性限定ボランティア交流会 開催要領

開催日時 平成26年12月14日（日）10:00～12:00
会場 北六甲台自治会館
対象者 北六甲台ボランティアセンターの男性登録者
北六甲台、上山口東在住の地域活動に関心のある男性

福祉ネット 北六甲

創刊号
平成27年4月1日発行

福祉ネットワーク
北六甲台地区会議
西宮市北六甲台自治会館内



福祉ネット設立総会

超高齢社会の事業モデルの船出

設立総会

三月八日「福祉ネットワーク北六甲台地区会議」の設立総会の日を迎えました。朝九時、会場の山口ホールに代議員をはじめ大勢の参加者の姿がありました。司会者の田中・社協副分区長の開会の言葉に続いて、福祉ネットの議長候補でもある岩見・北六甲自治会長の主催者挨拶がありました。自らの介護の問題を



交えながら自治会としても福祉ネットの設立準備にも積極的に関わり、今後の活動に大いに期待していると力強い挨拶でした。続いて来賓紹介です。西宮市や西宮市社会福祉協議会、構成組織の友好団体、地域関係団体の代表者



十名の皆さんにお越し頂きました。ご来賓を代表して津路・市健康福祉局福祉総括室長と清水・市社協事務局長のお二人からご挨拶を頂きました。それぞれに福祉ネットが地域福祉の在り方にとって意義深い試みであり、

今後の事業モデルのひとつとして大いに注目し期待しているといった激励の言葉を頂きました。議事に移り、事前にお願



さん、高橋さんの北六甲自治会副会長のお二人の議長団が登壇です。「設立趣意書・事業計画(二頁参照)」「会則」「役員選出(四頁参照)」の三つの議案が日高・事務局長候補から提案されました。議案ごとに採決が行われ、各議案とも圧倒的多数の賛成で可決されました。役員選出が可決された後、役員十一名とオブザーバー、アドバナーの八名の皆さんが紹介されました。



設立総会を締めくくる形で議長代行の生田・社協分区長から閉会の挨拶がありました。

福祉フォーラム

第二部の福祉フォーラムに移りました。福祉フォーラムは毎年総会の後に開催し、その時々福祉課題をテーマに基調講演やシンポジウムを予定しています。今回は、神戸学院大学の地域福祉が専門の藤井博志教授による「住民主体の地域包括ケアシステム」をテーマとした講演です。国が超高齢社会に向けて提唱している「地域包括ケアシステム」の内容を解説しながら今後の在り方や課題についても貴重な提言を頂きました。行政任せでない住民主体の枠組みづくりという点で福祉ネットが今後

のモデルとなるのではないかと期待されました。約九十分の講演後に女性お二人の質問もあり、地域での介護や見守りについての関心の深さが窺えました。質疑の後、生田議長代行から藤井先生への謝辞がありました。



り、十二時前に総会が幕を閉じました。最終的に百二十名の方に参加して頂きました。(代議員五十六名、一般参加者四十名、オブザーバー、アドバナー等十四名、ご来賓十名) 超高齢社会に向けた住民主体の事業モデルが順調に船出しました。(日高記)

◇既存事業の実施

- ①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回736名・上山口11回355名、ふれあい交流会サンパレス122名、友だちつくろう11回、第9回敬老のつどい145名、三世代交流グラウンドゴルフ60名、さくらまつり共催）
- ②研修活動（福祉講座2回63名、施設見学バスツアー35名、ボランティア研修会49名）
※福祉フォーラム（福祉ネット総会）110名
- ③支援活動（障がい者児支援事業「青い空」44回、在宅ねたきり介護者お見舞い事業16名）
- ④ボランティアセンター97回開設（ボランティア登録62名、カーボランティア利用者72名・利用回数172回、施設派遣延べ653名）
- ⑤山口中学校トライやるウィーク受け入れ（青い空3名）
- ⑥募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施。

【地域の動向】

- ・北六甲台自治会総会で自治会の福祉ネット参加を確認
- ・北六甲台連合福寿会の「いきいき体操」開始



平成27年度（2015）の活動

◇規約改正

平成27年度第20回総会で規約改正し次のように分区運営の抜本的な見直しを実施しました。

◇第8次地区福祉計画の策定（2015年度～2020年度）

- ・総会代議員を関係団体派遣者から社協執行部と日常業務担当の社協役員で構成する
- ・執行組織の整理と見直し（理事会を執行委員会に、事務局長設置、部会を事業部に）
- ・役員会を執行機関とすることを規約上に明記
- ・組織の改編（ボランティアセンターの事業部からの独立等）

目標：誰もが安心していきいきと生涯を暮らせる共生の町

(1) 目標実現のための基本理念「共生の町」

- ①多様な個人がつどい、支え合う「共生（共に生きて共に生かされる）」の町づくり
- ②福祉ネットを基盤とした多様な組織、役職、事業者との連携
→自治会、連合福寿会、社協分区、民生委員・児童委員、ボランティアセンター

(2) 取組み対象者（誰もが）

→高齢者、障がい者、認知症患者と家族、介護者、幼児・児童、子育て世代

(3) 目標実現のための四つのテーマ

①見守り②支え合い→安心して③居場所づくり→いきいきと ④医療・介護事業連携→生涯を

(4) 目標実現のためのテーマ別課題

テーマ	見守り	支え合い	居場所づくり	医療・介護事業連携
課題	安否確認	移送サービス	つどい場	施設人材派遣
	認知症サポート	困り事支援	交流	人材情報
	権利擁護	買物弱者支援	地域貢献	事業者連携
		障がい者支援		在宅介護
		介護者支援		
	子育て支援			

(5) 目標実現のための基盤整備と課題

- ①人材育成→人材発掘、研修
- ②広報活動→広報紙発行、ネット環境
- ③ボランティアセンター→運営体制、VC交流
- ④財務基盤→募金活動

◇有償ボランティアの検討

平成27年5月からコーディネータ会の中に有償ボランティア検討会を設置し「有償ボランティアの導入」の検討に着手しました。

◇既存事業の実施

- ①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回970名・上山口東11回339名・北六甲台文化祭227名・さくらまつり、ふれあい交流会サンパレス115名、友だちつくろう11回290名、第10回敬老のつどい154名、三世代交流グラウンドゴルフ雨天中止、さくらまつり共催）
- ②研修活動（福祉講座3回122名、ボランティア研修会49名）※福祉フォーラム（福祉ネット総会）110名
- ③支援活動（障がい者児支援事業「青い空」45回）
※在宅ねたきり介護者お見舞い事業の中止（市社協助成の廃止）
- ④ボランティアセンター97回開設（ボランティア登録62名、カーボランティア利用者70名・利用回数169回、施設派遣延815名）
- ⑤山口中学校トライやるウィーク受け入れ（青い空4名）
- ⑥募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施

【地域の動向】

- ・北六甲台自治会総会で福祉ネットの活動報告と計画が承認されました
- ・自治会と福祉ネットとの連携による取組みで、北六甲台のゴミステーションのコンテナ保管方式が当番の自宅保管からステーション内保管に改善実施されました

平成28年度（2016）の活動

平成28年5月の総会で分区長が生田氏から日高氏に交替し、新体制がスタートしました。

◇重点課題の取組み

①有償ボランティア「よりそいサポート」の発足

昨年5月からボランティアセンターで検討を重ねた有償ボランティアの仕組みが固まり、平成28年4月に「よりそいサポート」の名称で地域の皆さんを対象に説明会を開催しました。説明会には57名の参加があり、当日にサポーター12名の登録と4名の利用希望があり、いよいよ有償ボランティアの本格導入が始まりました。

②福祉ネット第2回総会の開催

昨年3月に発足した福祉ネットは、地域の高齢者困り事取組みに着手するとともに、事業者連携、分区の福祉講座支援、広報紙発行等を実施しました。平成28年6月には95名の参加者で第2回総会を開催しました。

③カラー版広報紙ぬくもりの全世帯配布

自治会非会員も含めた分区対象者への広報の趣旨から第21回総会での確認を経てぬくもり6月号カラー版（総会報告）をシルバーセンターを活用し全世帯配布を実施しました。

④分区20年誌発刊に着手

第21回総会をもって分区発足20年を迎えました。これを機会に分区の歴史・風土・事跡を検証し、メンバー間で共有できるよう「分区20年誌」の発刊に着手しました。

◇既存事業の実施

- ①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台10回720名・上山口東11回340名・北六甲台文化祭225名・さくらまつり、ふれあい交流会サンパレス106名、友だちつくろう12回270名、敬老のつどい154名、三世代交流グラウンドゴルフ雨天中止、さくらまつり共催）
- ②研修活動（福祉講座2回95名、宇治管外研修41名）
- ③支援活動（障がい者児支援事業「青い空」46回341名）
- ④ボランティアセンター97回開設（ボランティア登録74名、カーボランティア利用者62名・利用回数103回、施設派遣289回延733名）

ボランティアセンター だより

特別号

平成28年4月25日発行
西宮市社会福祉協議会
山口支那北六甲台分区分区長 日高 昭夫

高齢者、障がい者、介護者、子育て中のお母さん！

自立生活の困りごとを支援します

よりぞいサポートとは？（裏面参照）

高齢者、障がい者、介護者、子育て中のお母さんが対象です
よりぞいサポートは、上記の皆さんの自立生活の手助けをします
地域の皆さんの有償のボランティアサービスを提供します



なぜよりぞいサポート導入なのか

高齢化や介護保険改正等で生活支援ニーズが増大しました
既存の登録ボランティアの高齢化と減少が進んでいます
従来のボランティアの仕組みでは対応が難しくなりました
有償ボランティアの新たな仕組みで利用者とサポーターを繋ぎます

利用者・サポーター（提供者）の事前登録が必要

サービスの利用者、サポーターともに事前登録が必要です
利用やサポートをご検討頂けるよう下記の説明会を開催します



よりぞいサポート説明会にお越し下さい

地域のボランティアに関心をお持ちの皆さん！
困り事を抱えてボランティア利用をお考えの皆さん！
高齢者等の支援に関心をお持ちの皆さん！
下記の説明会にお気軽にお越し下さい
よりぞいサポートの仕組み、サービス内容、手続等をご紹介します

説明会のご案内

5月22日(日)開催！

時間：13:30～
会場：北六甲台コミセンA室

お気軽にお越し下さい！



VC（ボランティアセンター）

☎078-904-4576

相談日：毎週火曜日と木曜日
時間帯：9時～12時

提供内容と料金

回数制の活動 一回500円
電球や蛍光灯の交換、水道蛇口のパッキン交換、クリーニングの持ち込み持帰り、家具移動など
時間制の活動 一時間700円
庭の草抜き、植木の水やり、簡単な食事づくり、縫い物、送迎や買物の付き添い、話し相手など
※提供料金には訪問に要する交通費を含まれています
特殊な活動 福祉情報紙のポスティング、専門的的大工仕事や修繕など
※提供料金は別途定めます

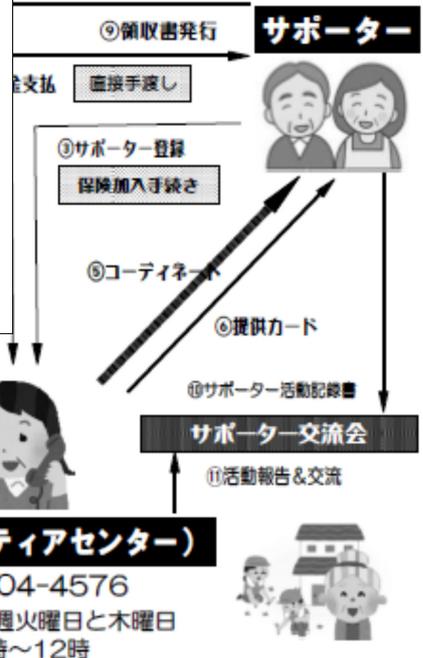
有償ボランティア

よりぞいサポート

発足！

サポートの概要

受ける方を利用者といい、ボランティアセンターをVCと表記します



福祉だより

北六甲台&上山口東の住宅街



ぬくもり

第87号
平成28年6月24日

西宮市社会福祉協議会
山口支部北六甲台分区
分区長 日高 昭夫

●発行/社協北六甲台分区 ●発行日/興敦月 ●編集/北六甲台分区広報部 ●配布エリア/北六甲台・上山口東



二十一年目の社協総会

「大介護時代」のとは口で

分区長 日高 昭夫

初めての役員総会

四月二十四日、社協北六甲台分区の第二十一回総会が開催されました。昨年総会で関係団体派遣の代議員による総会が、社協役員による総会に規約改定されて初めての総会でした。十名のご来賓を迎え、代議員である社協役員二十八名、オブザーバーの新役員六名の出席がありました。

生田分区長の開会挨拶の後、経見・市社協事務局長、梶・山口支部長からご来賓挨拶を頂きました。



総会議長に上山口東の曾我代議員が選出され議事を進めて頂きました。事業報告と計画案、会計報告と予算案、新役員選出と紹介等の議案が順次可決され、商標副分

区長の開会挨拶で総会が締め括られました。

分区長の交替

今回の総会で分区長が交替しました。生田前分区長の市社協副理事長という要職就任もあって分区長を辞任され、役員選考委員会、執行委員会の議を経て私の分区長就任が総会に提案されました。そこで今年度の事業計画案を私から提案しました。

事業計画の四つの柱

事業計画には四つの柱があります。第一は、昨年度策定した第八次地区福祉計画の年度計画との一体化とその積み上げによる実現です。「誰もが安心していきいきと生涯を暮らせる共生の町」を目標に、課題別の取組み計画に落とし込んで実現を目指すものです。第二は、重点課題の取

組みです。「有償ボランティアの本格的導入」「在宅ケア(医療・介護)の地域支援の推進」「地区福祉計画の目標実現の幅広い舞台としての福祉ネットワークとの連携」の三点です。



第三は、新たな課題の取組みです。「社協分区二〇年誌の発行(分区の歴史や風土のメンバー間の共有)」「広報紙六月号の全世帯配布(自治会員以外の住民も含めた全

住民への分区総会報告等の発信)」の二点です。第四は、基本事業の着実な実施と充実化です。支援事業、交流事業、広報・研修活動、募金活動等の多岐にわたる日常活動を整理・把握して、その深化を目指します。

大介護時代の到来

団塊世代の全員が後期高齢者になる「二〇二五年問題」が焦点になりつつあります。病院・介護の施設や医師・看護師・介護専門職等の人材の急激的な不足に見舞われま

す。否応なく在宅介護が迫られる「大介護時代」の到来です。環境が整わない在宅介護の苛酷さは周知の通りです。この事態に行政は地域での支援態勢づくり(地域包括ケアシステム)で乗り切ろうとしています。分区は、これを急頭に昨年「福祉ネット北六甲」を立上げ、その中心的な役割を担っています。大介護時代とは口を立て、社協分区の対応と覚悟が問われています。

まとめと課題「歴史の継承と地域包括ケア」



■社協分区の20年間の住民福祉の取組み

社協分区の20年の歩みを辿りました。敬老のつどい、ふれあい交流会（食事会）、ふれあい喫茶、ボランティアセンター開設、青い空（障がい者児支援事業）、友だちつくろう（子育てサロン）、カーボランティア、安心キットなど様々な事業を立上げ継続発展させてきた歴史でした。それは高齢者、障がい者児、子育て世代、その他住民の福祉のための環境整備の取組みだったと言えます。

この20年の取組みを通じて蓄積された事業、人材、風土はかけがえのないものです。これらの貴重な資産を継承し活用していくことが今後の重要なテーマのひとつです。

■「少子高齢化」がもたらした環境変化

他方で分区発足当時のファミリー中心の人口増の街は、今や人口減の超高齢社会に様変わりしました。少子化、核家族化が進展し、子育て環境は厳しさを増しています。高齢化、単身世帯化、共働き世帯増は、住民どうしの支え合い意識の希薄化を招きコミュニティの土台を揺るがしかねません。地域のボランティアを支える基盤そのものが脆弱化しつつあるといっても過言ではありません。

■社協分区の環境変化に対応した新たな取組み

社協分区は、そうした環境変化に対応した新たな取組みに着手し実践をはかりつつあります。「福祉ネットの立上げ」「ちょい呑みオヤジ会の発足とリタイヤ男性の地域ボランティア参加の模索」「有償ボランティア・よりそいサポートの立上げ」などです。

■「地域包括ケア（2025年問題）」を想定した環境整備

超高齢社会の進展により「大介護時代」を迎えます。医療・介護の施設や人材の絶対的な不足によって否応なく「在宅介護」に直面します。環境の整わない家族介護の苛酷さは周知の事実でしょう。地域でのサポートが必要です。厚労省が推進する「地域包括ケアシステム」の地域での具体化が迫られます。

他方でコミュニティ機能やボランティアを支える基盤が脆弱化しつつある今日、障がい者児や子育て世帯等の支援のための環境整備も欠かせません。



■分区事業の再構築



社会福祉協議会は社会福祉法人制度改革を受けて構造改革が求められています。平成29年度から実施される「社協北六甲台分区」から「北六甲台地区社協」への転換は、単なる名称変更にとどまりません。市社協の権限、財源が従来以上に分区に移行し、より一層地域に密着した分区の独自性が求められます。地域包括ケアを想定した環境整備とともに、地域の実情に合わせた課題の独自の取組みが必要です。

求められている課題は余りにも多くて重いものばかりです。活用できる財源と人材は限られています。従来通りのやり方では達成は困難です。事業を見直し、達成すべき課題に優先順位をつけ、その達成に向けて組織を整備しなければなりません。新たな人材確保に努め、課題達成を第一にメリハリのついた財源活用が必要です。分区事業の再構築が求められています。



1990年頃の北六甲台の風景（北六甲台4丁目宗村泰明さん提供）

あとがき

「社協北六甲台分区の20年の歩み」は3部構成です。

冒頭に「20年誌発刊に当たって」と題して歴代分区長のコメントを頂きました。中心となる本文「分区20年の歩み」は大きな時代のくくりごとに各年度の取組みを記述しました。出典は各年度の分区総会議案書です。分区の取組みだけでなく、その時々自治会等の地域の動向についても自治会議案書等で把握できる範囲で記述しました。また分区の各事業の始まりの背景やいきさつ等を編集者が手分けして執筆し、囲み記事として掲載して立体的な編集を試みました。記事内容に即したパンフレット、広報紙、写真も可能な限り掲載し視覚化に努めました。本文の最後に「歴史の継承と地域包括ケア」と題して20年誌編纂の「まとめと課題」を記載しました。

（日高・記）

発行	西宮市社会福祉協議会山口支部北六甲台分区
編集	社協北六甲台分区20年誌編纂委委員会
	編纂責任者 日高昭夫（分区長）
	編纂委員 生田 収（副分区長）
	田中弘子（副分区長）
	本郷克子（事務局長）
	井澤淳子（会 計）
	井上さち子（ボランティアセンター長）
問合せ	北六甲台ボランティアセンター（毎週火・木曜9時～12時）
	電話&FAX 078-904-4576
	西宮市北六甲台3丁目31番1号（安心プラザ2階）
発行日	平成29年（2017年）4月23日
印刷	新生会作業所

友だちつくろうのクリスマス会



ふれあい交流会

社協30年誌 (前編)

西宮市北六甲台地区社会福祉協議会